

# 国連総長特別代表 ザйнаブ・バングーラ氏



西アフリカ・シエラレオネ共和国出身。英ノッティンガム大卒業後、帰国して保険会社に勤務。市民活動家入りし、外相、保健衛生相を歴任。昨年9月から現職。54歳。

## 編集委員が迫る

世界の紛争地域で、武装勢力による計画的な集団レイプなど性暴力が後を絶たない。国連事務総長特別代表(紛争下の性的暴力担当)として紛争当事国を飛び回り、暴力根絶に取り組むザйнаブ・バングーラ氏が来日したのを機に、現状と課題を聞いた。(聞き手 永峰好美)

# 性暴力 屈辱強い「兵器」

■つかみづらい被害実態

— 就任から1年。アフリカを中心に紛争地を精力的に訪ね、性暴力の被害者と直接会って話を聞いている。実際何が起こっているのか。

「軍事政権下で紛争を経験した私でさえ、胸が張り裂けそうな凄惨な現実を各地で目にしている。ケニアの難民キャンプでは、妊娠8か月の時に銃で脅されてレイプされた女性に会った。コンゴ民主共和国では、生後6か月から12か月の乳児十数人が暴行されて亡くなり、5歳〜15歳の少女約180人が集団でレイプされた。ボスニア・ヘルツェゴビナでは、レイプされた男性がさらに息子をレイプするよう強制された例があった。



中央アフリカ共和国の女性たちと、「性暴力はノー」のポーズを取るバングーラ氏はノー(中央) UNPhoto/Cristina Silveiro

た。女性や女兒が多いが、男性被害者も報告されている。被害者はどのくらいに上るのか。

「ほとんどの場合、被害が表面化しないのでデータがつかめない。性被害のような出来事は誰にも知られたいくないし、伝統的な部族では、敵対する部族に辱めを受けたことがわかれば、コミュニティから排除されることが多い。当事国政府も認めながらも、証言する人が少しずつ増えて、報告数は伸びている。国連としてデータを公表するには精査が必要だろう」

— 性暴力が絶えない理由をどうみるか。

「それが、戦争の手段としてコストのかからない破壊兵器だからだ。対立する民族の女性を凌辱する行為は、民族の誇りを最大限傷つける攻撃である。被害を受けた民族を屈辱と恐怖に陥れ、兵士の声を上げ始めた。95年の北京

国際社会はこの問題とどう向き合ってきたのか。

「戦争と性暴力の問題は今ずっと不問に付されてきた。1990年代になって、旧ユーゴスラビアやルワンダ内戦での集団レイプ被害を知った女性NGOが国際会議の場で声を上げ始めた。

— 加害者へ強い姿勢をどうみるか。

「国際社会はこの問題とどう向き合ってきたのか。戦争と性暴力の問題は今ずっと不問に付されてきた。1990年代になって、旧ユーゴスラビアやルワンダ内戦での集団レイプ被害を知った女性NGOが国際会議の場で声を上げ始めた。

— 被害者の傷癒やす

「自身がこの問題と関わるきっかけは？

「両親は伝統的部族集落の出身で、学校に行かず、文字も読めない。母は勉強をしたかったが、女兒であるために許されず、12歳で結婚、私を産んだ。母は私には教育を受けさせようとしたため、家族から追放され、私は学校の寄宿舎で生活した。母は村で隠れるようにして暮らしながら私を応援してくれた」

「奨学金を得て大学を卒業した当時は軍政下。性暴力の餌食になる女性が大勢見た。世の中を変えたいと思い、仕事をしながら、女性の権利保護や良き統治を推進する市民グループで活動を続けた。軍政が終わり、民主的な法制度を作ろうと政界入りした。私は、週末開廷する犯罪専門の特別裁判所を新たに設け、

の世界女性会議では、戦時下の性暴力がいかに残酷で、人間の尊厳を踏みにじる行為であるかが討議され、「女性に対する重大な人権侵害」との認識が深まった。だが、国連で主要な問題として注目されるまでには至らなかった」

## 訴追の枠組み 目指す

■被害者の傷癒やす

「現在の安全保障理事会で取り上げられ、性暴力対策を安全保障と平和構築の問題として明確に位置づけた。6月の安保理決議で、加害者に対するその罪が容認されることはないという強い姿勢が打ち出され、犯罪の監視と加害者への制裁措置などが条項に盛り込まれた」

「犯罪を非難するだけの時代は終わった。紛争当事国で、性暴力を犯罪としてきちんと訴追できる法の枠組みづくりを急ぎたい。そして、あまりにも長い間沈黙を守りしかなかった被害者の深い傷を少しでも癒やし、被害者の声を生かした対策にいく。人間たってきた」

「日本への期待は？」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」

## 防止 国際社会の責務



被害者を一人ひとり訪ね歩き、寄り添い、共に泣き、抱きしめ、時間をかけて話を聞き、「私たちがそばにいるからもう大丈夫」と安心させる。その繰り返した。1991年から約10年にわたる母国の内戦終結の際には、国際機関に助けられた。「今度は私が恩返しをする番」と、情熱を傾ける。

紛争下の惨事に思いをはせるのは、平和な日本ではなかなか難しい。だが、平時の社会で人間の尊厳が守られず、性暴力をなくせないとしたら、紛争下で防止できるはずもない。性暴力のない世界づくりは国際社会に課された責務でもある。(永峰)

「さらに9月、英国のヘイグ外相らの呼びかけで、日本を含む13か国が、紛争の初期段階から性暴力の防止に優先課題として取り組むことを明記した行動宣言を採択した。被害者やその家族、レイプの結果生まれた子どもへの支援を最重要項目として挙げている。国際社会の決断で、対策は新たな局面に入ったといえる」

「さらには9月、英国のヘイグ外相らの呼びかけで、日本を含む13か国が、紛争の初期段階から性暴力の防止に優先課題として取り組むことを明記した行動宣言を採択した。被害者やその家族、レイプの結果生まれた子どもへの支援を最重要項目として挙げている。国際社会の決断で、対策は新たな局面に入ったといえる」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」

「安倍首相が国連総会の演説で、この問題に積極的に取り組む、世界中の女性が輝くように努力を惜しまないと約束してくれたことに感謝したい。日本は戦争を経験し、焦土化したところから立ち上がり、経済発展を遂げた。だからこそ、紛争が終息しつつある途上国には理想的なモデルになりうる。日本はこの分野でチャンピオンなのだから、国際社会をリードしていただきたい」